

# 木更津市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式及び

## 令和4年度 第1回木更津市子ども・子育て会議

### 議事録

日時：令和4年6月28日（火）午後2時00分～午後3時30分

場所：木更津市民総合福祉会館 第1、2研修室

#### 次第

木更津市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式

1. 委嘱状交付
2. 健康こども部長挨拶

令和4年度 第1回 木更津市子ども・子育て会議

1. 開会
2. 議題
  - (1) 第2期木更津市子ども・子育て支援事業計画の進捗について
  - (2) 特定保育・教育施設の利用定員及び幼稚園の認定こども園移行について
  - (3) 子ども・子育て支援事業計画の変更について
  - (4) その他
3. 閉会

【議事内容】

## 木更津市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式

### 1. 委嘱状交付

---

事務局

- 令和4年度の人事異動等により、会議委員の変更が生じていますことから、只今より新規委員の委嘱状交付式を執り行います。

委嘱状交付者（4名）※委嘱状交付者

### 2. 健康こども部長挨拶

---

鶴岡部長挨拶

- 新たに委員となられた方におかれましては、ご多忙のところ委員を快くお引き受けいただき、お礼申し上げます。

さて、本市では、令和5年度からの木更津市総合計画第3次基本計画の策定準備を進めています。木更津市総合計画は、本市の子育て支援の方向性が示されていることから、委員の皆様から、子育てを取り巻く現状や課題をお聞かせいただき、計画策定の参考とさせていただきたいと思っております。本市の子ども達のより良い環境を作るために、委員の皆様それぞれの見地から、忌憚のないご意見、ご提言をいただきますよう、お願い致します。

## 令和4年度 第1回 木更津市子ども・子育て会議

### 1. 開会

---

事務局

- 本審議会は『木更津市審議会等の会議の公開に関する条例』における『審議会等』にあたることから、同条例第3条の規定により、原則公開となります。また、会議録については、同条例第9条の規定により、個人情報等の不開示情報に留意して、公表することといたします。なお、会議録の調整方法については、要点記録とし、発言に係る委員名は記載する取り扱いといたします。

### 2. 議題

---

議題（1）第2期 木更津市子ども・子育て支援事業計画の進捗について

平野会長

- 議題1について、事務局から説明願います。

事務局

- 【資料1：第2期木更津市子ども・子育て支援事業計画進捗管理シート】

事業とその取り組み内容についてすべてを説明することはできませんので、計画目標にそって、特筆すべき事業のみ報告します。

基本目標1「充実した幼児期の教育・保育の提供」の「保育園・幼稚園等巡回相談事業」は、令和3年度は市内全ての園に実施しました。対象児は年々増加し、延582名となっています。基本目標2「地域子ども・子育て支援事業の推進」の「地域子育て支援拠点事業」は、令和4年10月から公立保育園で新たな子育て支援拠点事業が開始予定となり、現在準備をすすめています。「ファミリー・サポート・センター事業」は、令和3年度、新型コロナウイルスワクチン接種に伴う預かりを無料で実施しました。令和4年度は、ひとり親への利用助成事業を開始しています。基本目標3「子どもの健やかな成長への支援の推進」の「青少年育成事業の実施」は、オンライン講座の実施に取り組み、令和3年度、149回実施しています。公民館事業講座などは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、中止・縮小していましたが、オンラインを活用するなど、アフターコロナ、ウィズコロナを見据えて事業展開をしています。基本目標4「親と子の健康の確保及び増進」の「産後ケア事業」ですが、令和3年度より産後の母子居宅に助産師が訪問し、ケアを行う訪問型産後ケアを開始し、対象も産後1年までに拡充しました。基本目標5「子育てを支援する生活環境の整備」の「きさらづネウボラ相談」ですが、令和元年は相談件数が564件だったのに対し、令和3年度は1544件と大幅に増加しました。そのうち、子どもの発達に関する相談は877件と半数以上を占めており、発達相談に対するニーズの高さが伺えます。「子育てヘルパー派遣事業」は令和4年度、「産前産後・家事育児サポート事業」として開始予定です。現在8月事業開始に向け、準備をすすめています。以上が進捗状況の概要となります。

#### 平野会長

- ご意見ご質問ございますか。

#### 青柳委員

- 産後ケア事業について質問します。子育てはパートナーの理解も大事だと思っておりますが、この事業の対象者はパートナーも含めてのサービスですか。

#### 事務局

- 産後ケア事業は産褥の母の体調の回復を促し、育児手技の獲得を目的とした事業で、医療機関に宿泊、滞在して行うサービスと、助産師が自宅に訪問して行うサービスがあります。訪問型産後ケアを利用することによって、産婦と一緒にパートナーも助産師のアドバイスを聞くことは可能です。

## 平野会長

- 他にご意見、ご質問が無いようですので議題2に移ります。

## 議題（2）特定保育・教育施設の利用定員及び幼稚園の認定こども園移行について

### 平野会長

- 議題2について、事務局から説明願います。

### 事務局

- お手元の資料2-1「特定教育・保育施設の利用定員変更について」をご覧ください。高柳幼稚園の利用定員変更は、保育のニーズが増加したことに伴い、現在最大限の児童の受け入れを行っている状況となっています。この状況に合わせた定員変更となり、令和5年4月より保育部分が20名定員に変更となります。また、教育ニーズが減少し、現状の受け入れ人数の実態に合わせ、令和5年より180名定員となります。

次に、資料2-2「幼稚園型認定こども園移行及び特定教育・保育施設の利用定員の設定について」をご覧ください。清和大学附属畑沢幼稚園について、令和5年4月に幼稚園型認定こども園への移行を予定しています。移行後の定員数については、保育ニーズに対応し、教育部分である1号認定が180名、保育部分である2号認定が40名の合計220名となる予定です。なお、施設の整備は行いません。

今後の保育ニーズに対応するため、利用定員の変更及び幼稚園型の認定こども園移行を行うものです。参考資料として、市内の保育所等の利用定員の表を配布しておりますのでご覧ください。

### 宮崎委員

- 資料2-2畑沢幼稚園の利用児童数は、令和2年、3年、4年と合計数が減ってきていますが、令和5年の合計数は増えるのですか？

### 事務局

- 令和5年4月1日の利用定員は、満3歳児、3歳児合わせて67名、4歳児37名、5歳児37名、保育部分の2号認定が3歳児クラス13名、4歳児クラス13名、5歳児クラス13名の39名と伺っています。過去3年、平均180名が利用しており、そのうち、一時預かりが利用できる新2号を使っている方が40名程いるというお話があり、今回2号認定を39名に変更しました。

### 宮崎委員

- 現状に合わせたということですね。資料2-1の高柳幼稚園の過去の実績は令和

3年と4年の合計を見れば良いですか。

事務局

- 在籍人数の実績（参考）をご覧くださいと思います。令和4年4月時点で保育部分に関して、3歳児が3名、4歳児が6名、5歳児が10名合計19名となっています。こちらも現状に合わせた利用定員の変更です。

庄司委員

- 資料2-2に書かれている1号認定は、幼稚園に入園する際に面接して受け入れているのですが、2号認定は、幼稚園はそういうことに関与しないという理解でよろしいでしょうか。

事務局

- 1号認定に関しては幼稚園部分ですので、申し込み等は直接幼稚園で行ってもらうこととなります。2号認定につきましては、認可保育所と同じで、保育の必要性が高い方を優先に入園を決めていく形となります。

2号認定についても、市保育士が入園希望のお子さんと面接をしています。お子さんの特色などを園に伝え、基本的には受け入れていただく形をとっています。

宮崎委員

- 2つの幼稚園の保育部分の数字ですが、これは木更津市全体に響くことです。市原、市川、我孫子などは、小委規模保育事業は必要が無くなってきていたり、世田谷でさえも小規模保育事業が廃止になるなど、保育園の需要が減り始めているという印象を持っています。それが木更津にも起こるのではないかと懸念しています。4月時点で待機児童が10名もおらず、来年は待機児童0になるのではないのでしょうか。小規模保育事業等を含めての全体的な保育所定数について説明がないと、これを簡単に認めるわけにはいきません。

事務局

- 提供量ですが、全体の保育の量の見込みや利用定数をまとめたのが、資料3-1になります。こちらの資料は令和3年度、4年度の利用定員の実績と申込の人数をまとめ、畑沢幼稚園と高柳幼稚園の予定変更を反映させた資料になります。3歳児から5歳児の量の見込みは、年々申込率が増加しており、現在の提供量は、保育園は679名、認定こども園の保育部分が614名の合計1293名となっています。利用定員より120%多く受け入れた場合が1551名となっているので、今、待機児童が出ていないという状況になります。令和5年、6年の量の見込み、保育のニーズが右肩で上がっていくという予想がたっています。1-2歳児の提供量の

利用定員については、保育園、認可保育園、小規模保育事業、事業所内保育施設などを入れて613名、認定こども園が176名、合計で789名の受け入れ枠がある状況です。現状の申込者数と比べると過不足という形で受け入れ体制が整っていないということになっています。待機児童は減っているということなので、利用定員をより多く受け入れていただいている施設が多くあるという現状になっています。年々保育ニーズが右肩上がりになっていくということが予想されますので、高柳幼稚園、畑沢幼稚園の利用定員の変更の話をさせていただきました。

#### 宮崎委員

- 了解しました。

#### 平野会長

- 「令和3年4月の待機児童数のポイント」という厚生労働省の資料を会議に提供しました。平成29年は待機児童が日本全国で2万6千名くらいでしたが、令和3年には5千634名まで減少しております。千葉県も木更津より南の市町村は人口流出等々で、保育園利用児童数が急激に減少しています。その大きな流れの中で木更津市としては、今後どのような事業計画を立てていくのか伺いたい。

#### 事務局

- 全国的に少子高齢化が進む中で、本市の状況は、就学前児童数が減少傾向にあるといった中で入所児童数は増加傾向にあるといった状況です。昨年度は増加する待機児童の解消に向けて、市立保育園の民営化や新規施設の整備を行い、それにより令和3年4月1日時点で、90名だった待機児童が令和4年4月1日は6名へと大幅に減少しました。しかし、出生や転入、保護者の就労などにより、待機児童が月を追うごとに増えているという傾向は例年と同じで、6月1日時点では17人となっています。本市としては、昨年度の子ども・子育て会議でもご承認いただきました、木更津市待機児童解消対策に関する基本方針に基づき、待機児童ゼロを達成すること。また、その継続を必須条件とした上で、いつでもどこでも預けることができるといった、充実した保育環境の整備を目標とし、様々な取り組みを推進していくこととしています。

今年度は、受け入れ枠を拡大していくために、保育士の処遇改善やこれから保育士になろうとしている方への貸付制度の創設も行う予定であります。

#### 平野会長

- 現実今どうなっているかという問題と、3年後、5年後どうなっていくか予測した上で計画を立案していかないと、問題が出てくると感じています。今の説明のとおり、ここ5年間で認定こども園の保育所部分を含め大幅な定員増がはかられて

います。その結果、待機児童が激減しましたが、将来にわたって、需要が右肩上がりに続くという保障はどこにもありません。保育事業者は、覚悟をもって保育事業を運営しており、木更津市のお子さんたちの健やかな成長を保障する仕事を続けております。それは、幼稚園も変わりません。それを木更津市はもう少し評価をしていただきたいと心から願っております。

今一度申し上げれば、全国の待機児童がわずか5年間で5分の1まで激減しています。女性の就労率は80%を超えており、出生数が減少する中、女性の就労率が上がっていくことで、なんとかバランスがとれていると推測しています。令和2年、3年を比較すると、出生数が2万人減りました。出生数が減るということは、将来お子さんを産める女性の数が減るということです。令和4年度は出生数が80万人を割ると推測されています。その生まれた女の子達が20数年後に出産の時期を迎えた時に、生まれる子どもの数も減ってくるということになります。今後、木更津市が子ども・子育てという分野に留まらず、総合的に発展していかないと、この町はしだいに、人口減少の波に飲み込まれてしまう。そのことを非常に心配しています。

#### 宮崎委員

- 令和3年4月1日吾妻保育園の民営化を受け、10年埋まらなかった60名の定員が受託1年目の、2月1日に満たされました。2年目の6月1日現在64名となっています。もともと120名定員だった市立吾妻保育園の隠されていた収容能力を思い出し、新しい保育園を造らずに問題を解決するという、一大解決案を明確にこの会で打ち立てたい。隠れている収容定員を洗い出すこと。施設建設費を使わずに定員増が可能であること。保育士が余り始め、公立でも新規採用が今以上にし易くなること。既存の施設で定員増ができることを洗い出し、税金を少し節約できるということを説明して会長のお話の補足とさせていただきます。

#### 鈴木委員

- 途中退出させていただくので、この議題2の主旨からずれていますが、意見を述べさせていただきます。SNSが普及し、保護者達がすごく振り回されます。特に幼稚園、保育園に入園する際は、あらゆる情報がSNSに流れます。子育てをしていると何が正しい情報なのか分からなくなることがあります。正しい情報は信じられると思うので、木更津市では正確な情報を流していただければと思っています。

#### 平野会長

- 事務局できちんと受け止めていただければと思います。

## 議題（３）子ども・子育て支援事業計画の変更について

### 平野会長

- 議題３について、事務局より説明願います。

### 事務局

- お手元の資料３-１「量の見込みと提供量」をご覧ください、第２期子ども・子育て支援事業計画の変更を行う背景としては、計画作成時の就学前児童数、教育の量の見込み及び提供量、保育の量の見込み及び提供量に実績との乖離がみられた為です。原因としては、本市の出生率の低下、幼稚園や認可保育園の認定こども園への移行などが考えられます。就学前児童数は、令和３年度、４年度、いずれも４月１日時点の実数を入れてあります。令和５年度からの就学前児童数については、ここ数年の就学前児童数の増減率、０歳児はマイナス１.６％、１-２歳児はマイナス１.６％、３歳児以上は、マイナス２.３％より算出しました。教育に関する量の見込みは、過去数年の増減率より算出しました。１号認定がマイナス１.８％、２号認定が０.０％として計算してあります。ただし、定員数については、認定こども園となった金田幼稚園、高柳幼稚園、新制度幼稚園のきさらづ幼稚園、八幡台幼稚園を除いた市内の幼稚園だけでも２１９０名となっているため、かなり定員割れの傾向にあると言えます。保育量の見込みとしては申込者数の過去数年の傾向から、０歳児、年１.１％、１-２歳児、年１.２％、３歳児以上、年１.０％の増加傾向があるため、これをもとに算出しました。

保育の提供量について、令和３年度、４年度はいずれも４月１日時点の利用定員の実績になっています。１-２歳児の定員において不足となっておりますが、弾力的に園児を受け入れているため、待機児童数は減少しています。なお、令和４年４月１日時点の待機児童は０歳児０名、１-２歳児２名、３歳児以上４名となっています。令和５年度からは高柳幼稚園の利用定員変更、清和大学附属畑沢幼稚園の認定こども園移行を含めて算出してあります。「保育３-５歳児」の表にある通り、２号認定に関しては令和６年度にかけて少しずつ不足分が出てくるものの、各施設が１２０％の利用定員で受け入れた場合には不足状況が解消されることとなります。

「保育１-２歳児」に関しては令和６年度まで保育の提供量に不足が生じておりますが、各施設が１２０％の利用定員で受け入れた場合には不足状況が解消されることとなります。「保育０歳児」については、令和４年度からの提供量である定員数が１８６名となるため、受け入れ枠に余裕が見込まれます。このことから０歳児の申し込み状況に応じ、各園の１-２歳児の受け入れ枠の調整が可能になるので

はないかと推測されます。以上、「新子育て安心プラン実施計画」のデーターを基に教育・保育の量の見込みと提供量についての見直しをさせていただきましたが、今後の木更津市における開発事業計画、大手企業の誘致計画等に伴う人口の増加は、就学前人口及び年齢別人口の推移には盛り込んでいないため、量の見込みにはプラスアルファが必要と思われます。本計画の計画期間である令和 6 年度までは、推計した数値をもとに不足する提供量を充実させるため、提供体制の整備を行っていきたいと考えています。参考資料として、市内の幼稚園定員及び認可保育施設入園状況等をご覧くださいいただければと思います。

#### 平野会長

- 議題2でほとんど質問、議論はされており、それを計画に反映したものが、議題3ですので、共通していると思われます。

待機児童の推移の資料ですが、平成 30 年から令和 4 年度まで出ています。3 月の待機児童数から翌年度 4 月の待機児童数を引くと、相当数が 4 月に解消されたというわけです。これは、5 歳児が卒園して空きが出て、1 学年ずつ進級していき、0 歳を中心に待機児童が減るという現象です。令和元年度 3 月に 200 名いた待機児童が、令和 2 年度 4 月に 62 名、この人数を見る限り、令和元年度 4 月の待機児童数が 69 名ですので、あまり変化がないです。令和 3 年 4 月になると 90 名で、令和元年度、2 年度よりも大幅に増えてしまいました。これが結局新しい施設開設の大きな原動力となったと思います。令和 4 年 3 月 182 名いた待機児童が 4 月に 6 名になったということは、新しくできた施設が動き出した効果かと思われます。6 月 1 日現在、17 名ということですが、過去を比較すると平成 30 年から令和 4 年の 6 月の待機児童数の推移をみますと、115 名、73 名、74 名、120 名、17 名です。過去の 4 年間を比較して待機児童数が 4 月のみならず、3 か月経過した 6 月も、これだけ激減しているということです。もしかしたら供給量が上回っているのではないかという推測ができないこともないかと思われます。その辺はしっかり精査していただき、今後事業計画に反映していただきたいと思います。

それでは、第 1 号、2 号、3 号議案全て説明、意見、ご質問等お受けしましたので、第 1 号議案から 3 号議案までまとめてご承認いただける方は挙手をお願いします。

(※全員挙手)

全会一致ということで、3つの議案は承認いただきました。

### 3. その他

---

#### 事務局

- その他としまして、事前に「課題共有シート」を配布しました。令和5年から子ども子育て支援事業計画の上位計画である、木更津市基本計画が改定され、子育て支援の大きな方向性を決めていくものになります。皆様のお立場で考える、子育て支援の方向性について、参考としてご意見いただきたいと思います。

#### 平野会長

- このことについて、木更津のマスタープランといたしまして最も重要な計画となっています。これは、経済から福祉、子ども・子育て施策など、この計画に基づいて市は様々な施策を展開するというものです。委員の中には現在子育て真っ最中の方もいらっしゃいますので、できるだけそういう声を反映できるように、子ども子育て分野について、ご意見を寄せていただきたい。

#### 青柳委員

- 「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」とありますが、妊娠期からでは遅いと思います。パートナーがいる時点で結婚、出産となることを考え、仕事、人間関係、妊娠、出産、ホルモン、産後の心や、体調がどのように変化していくのか、女性だけでなく、パートナーや夫も知っておく必要があります。母親学級だけでなく、男性だけの父親学級も行い、今後子育てはパートナーと一緒にっていくものだと認識する場も必要かと思います。

それから、待機児童問題について数が注目されていますが、待機児童になった方の状況がそれぞれ違うので、それもきちんと分析する必要があると思います。

また、学童クラブの課題ですが、私が感じたのは、施設のトイレが狭く、子どもの体格が大きくなってくると下着が下せないといった状況があります。学童のニーズが増えてきますので、トイレの改善など、環境整備もご検討いただければと思います。

#### 庄司委員

- 私は木更津市の未就学児の支援は非常に手厚いと思っています。コロナが厳しかった時に、職域接種の手を差し伸べてくれたのが木更津市でした。また、幼稚園の施設補助金は、木更津が4市の中で一番手厚いです。それから、昨日巡回相談で、ネウボラの方が幼稚園に来て下さいました。担任の困り感を、共感的に聞いていただき、担任が自信を持つことができるといった、すばらしいもので、このまま続けていただけたらと思いました。幼児言語センターがあって、言語面からの支援の連

携も非常に良く、これは他市にはみられない状況です。これはきちんと評価していただきたい事業だと思ひます。

園バスに添乗していると、金田、請西など沢山若い人たちがいて、木更津市は勢いがあると感じます。上手く道しるべを作って、導いてもらえればもっともっと良い市になると思ひます。

#### 白石委員

○ 子育てをしやすい街づくりというのは大きな売りになると思ひます。子育て支援センターにいと、お母さんが親になりきれずに困っているという現状を見ています。それは、パートナーとの連携といったことかもしれないですし、子どもの発達かわからないという基本的なことなのかもしれないと感じます。ストレス解消といった視点からは、各子育て支援センターがお母さん方を早くから受け入れたり、赤ちゃん広場の開催など、すごく手厚く充実していると思ひます。産後ケアや家事支援なども、とても良い方向に進んでいると思ひています。ただ一つ足りないと思ひているのは、お母さん達が学べる場が少ないことです。迷子になっているお母さんが多く、子育て支援センターに辿りつき、信頼できる先生が見つければ、そこで進んでいけると思ひますが、そういう方達ばかりではないので、広く学びの場を提供できたら良いと思ひます。具体的な取り組みを考えると、保育園などの現存する施設を使うのが一番良いと思ひます。例えば公立保育士さんを派遣されても良いでしょうし、もしお力を貸せるのであれば、子育て支援センターでも良いかと思ひます。本当にお母さん達が困っていること、例えば「イヤイヤ期ってどんなこと？」「離乳食でごはん投げるのってどういふこと？」など、一つ一つ解決するようなメニューを沢山用意し、オンラインなどではなく、「ここで開催しているからおいで。」「お話を聞くとよ。」「またはみんなで話してみよう。」という具合に学べる場を広げていけたらと思ひています。

2 点目は、障がいのあるお子さんを持つ親御さんで、まだ障がいを認めきれないという状況の中で、自分が心配であるという気持ちを言える場所があったら良いと思ひています。1 歳半健診から 3 歳児健診まで間が空くので、2 歳くらいの時に、発達相談など、そこまで専門的な場所ではなく、お母さん達がこのまま進んで良いと思える場があると良いと思ひています。未満児には手厚い支援を展開していただいているので、あと一歩だと思ひます。

#### 山口委員

○ 他の市と比べると、大きい公園が少ないと感じます。袖ヶ浦は大きい公園があり

ますが、木更津市は小櫃堰公園くらいしか思い当たりません。小さい公園も遊具が少なく、古くなっているものもあります。住宅地も増えてきているので検討をお願いします。

#### 加藤委員

- 私も、大きな公園に行く時に、木更津市から出ていることに気づきました。自分が子どもの頃、潮浜公園によく行っていたことを思い出します。遊具が老朽化してアスレチックがなくなってしまうのは仕方がないのですが、もう少し活用できたら良いと思います。中の島大橋の下もすごくおしゃれになっていて、以前までは、薄暗い公園でしたが、こども達を連れて行きやすかったです。できれば足元だけでも水遊びができて、虫や植物があるなど、子ども達が自然と遊べる場所が木更津市に増えたら良いです。

我が子が生まれた時に親戚の方が木更津市の指定ごみ袋をくれました。地味にお金のかかってくるところなので助かったのを覚えています。例えば、乳幼児健診の時に配布するなどすると、行こうかなと思えます。

市原市はスーパーの袋がごみの袋になっていて、羨ましいなと思いました。企業とコラボしていただくなどしていただき、負担が減れば嬉しいです。

#### 平野会長

- 子育てに係る様々な課題が隠されているのだと思いました。

公園の問題については、実は以前から言われており、周辺の公園で新しい遊具が出来たり、草を刈ってきれいになっていたり、少しずつ動きはあります。潮浜公園は管理が千葉県ですので、予算の配分の問題になってしまいます。

木更津市が、子どもを生み育てやすい街にしようというのが、子ども・子育て支援事業計画の理念の中にうたいこまれており、少しずつですが、進めていることは確かです。木更津市は海もあり、山もある。馬來田のほうに行けば里山が沢山ありますので、それを利用したような公園が整備されれば、そこで1日自由に遊び、虫を取ったりすることもできます。そういうことを審議会の中での意見としてあげていただければと思います。

本日の子ども・子育て会議はこれを持ちまして終了させていただきます。

(閉会)